

タイ第三国集団研修事前調査団報告書

— ラオス実務者向け造林普及技術 —

1998年10月

国際協力事業団
研修事業部

JICA LIBRARY



J 1146964 (0)

研 一
J R
98-20

CA
12
8
IF
RARY



1146964 (0)

序文

第三国研修は、我が国が開発途上国（以下途上国）に移転した技術を、当該途上国を通じて、文化的また気候・風土的に共通の基盤を持つ周辺国に適正技術として移転・普及させることを目的としたJICA研修員受入事業の一形態です。この事業は、途上国自身のイニシアティブの下、我が国の技術的・資金的支援を得て、当該途上国の研修実施機関が周辺国から研修員を受け入れて研修を実施する形をとります。

1994年8月、「日本・タイ・パートナーシップ・プログラム（JTPP）」締結時に、日本とタイはこれまでの技術協力関係を更に発展させ、両国の良好な協力関係によってタイに蓄積された技術をもとに、特にインドシナ諸国を中心とした他の開発途上国の開発に資する協力事業を共同で実施することに合意しました。

同プログラムの下、タイにおける第三国研修は順調に伸張してきましたが、その一方で、同プログラムをさらに多様化、高度化させ、より効果的なプログラムとしていくことが重要との認識が日・タイ双方に芽生えてきました。このため、1996年9月に、当事業団からプロジェクト形成調査団を派遣するなど、その方策が検討されてきました。こうした検討を通じ、タイにおける研修の実施が技術的にも最も効果が高いと考えられるラオスを対象とした国別特設型の第三国研修の発掘・形成が進められ、この結果、ラオス政府から造林分野での研修実施の要望が表明されました。

ラオスとタイの政治的、歴史的な関係に配慮し、日本・タイ・ラオス三国間の信頼関係を築きつつ準備を進め、今般ラオスを対象とした第三国研修「ラオス実務者向け造林普及技術」事前調査の実施に至ったことは、非常に喜ばしいことです。

本報告書は、上記第三国研修の実施にあたり、当事業団が1998年5月31日から同6月11日まで派遣した事前調査団の調査結果およびタイ側並びにラオス側との協議結果をとりまとめたものです。調査実施にあたり、多大なるご協力をいただいた関係者各位に深甚なる謝意を表する次第です。

国際協力事業団
研修事業部長 森本 勝



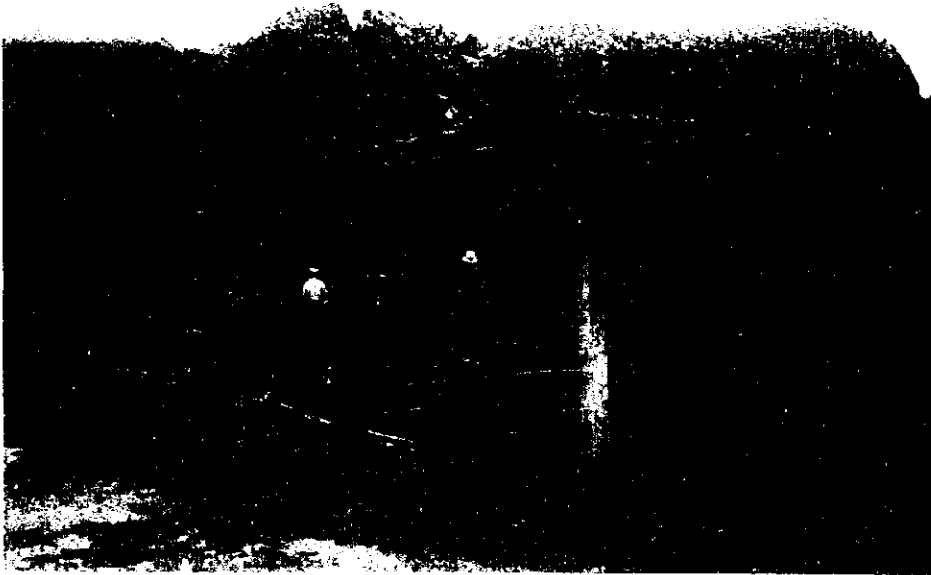
タイ・ウドンタニ
苗畑センター



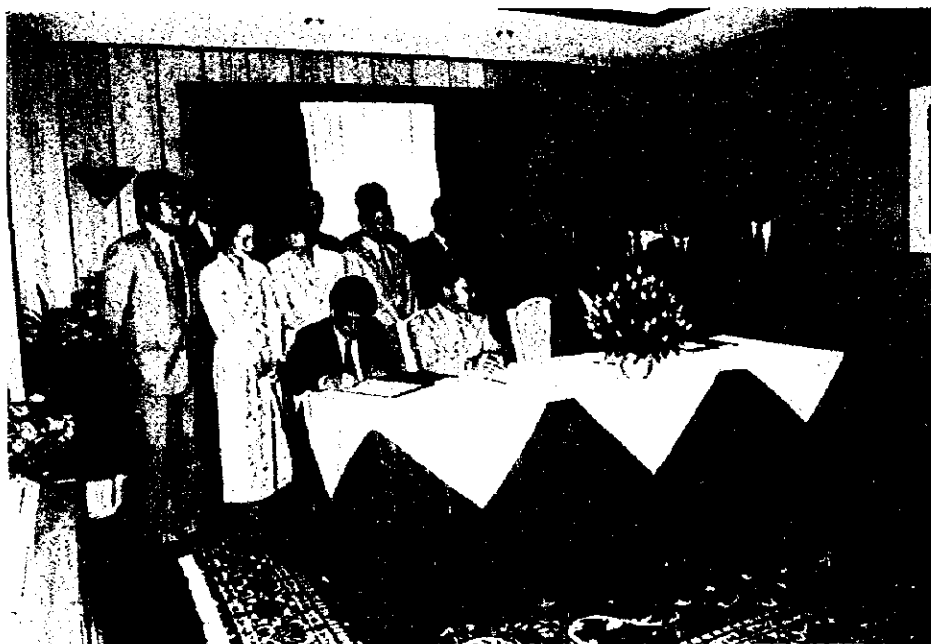
ウドンタニ苗畑セ
ンターに苗をもら
いに来た人々



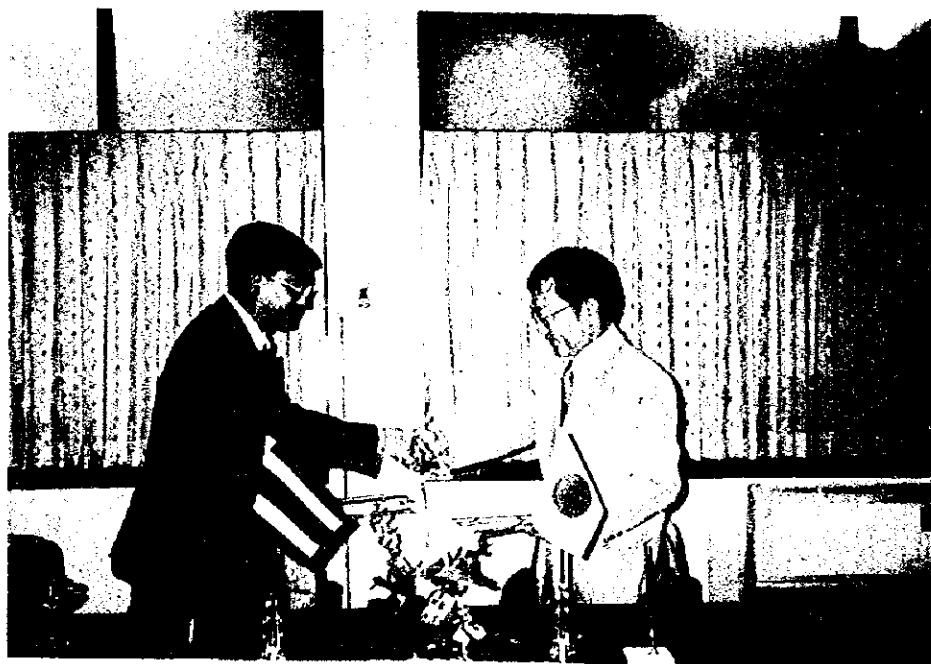
ウドンタニ苗畑セ
ンターを見学に来
た学生



ラオス・プロ技「森
林保全・復旧計画」
プロジェクトサイト



日・ラオス・タイ
三者間ミニッツ署名
(6月8日、ラオス・
ヴィエンチャン)



日・タイ二者間ミニ
ッツ署名 (6月10日、
タイ・バンコク)

目次

序文
写真
地図

1. 事前調査団の派遣	
1.1 派遣の経緯と目的	1
1.1.1 JTPP（日・タイ・パートナーシップ・プログラム）	1
1.1.2 派遣の経緯と目的	2
1.2 調査団の構成	2
1.3 調査日程	3
1.4 主要面談者	4
2. 調査項目概要	6
2.1 タイ側要請概要	6
2.2 事前調査調査項目概要	8
3. ラオスのニーズおよび案件の妥当性	9
3.1 ラオスの研修ニーズ	9
3.2 実施国の現状	9
4. 第三国集団研修実施体制	10
4.1 タイ首相府技術・経済協力局（DTEC）	10
4.2 王室林野局（RFD）	11
5. 協議内容	11
5.1 我が方対処方針	11
5.1.1 コース内容	11
5.1.2 事務手続き	13
5.1.3 経費負担	13
5.1.4 ミニッツ	13
5.1.5 その他確認事項	14
5.2 主な協議内容・変更点	14
5.2.1 日・ラオス・タイ三者による協議の概要	14
5.2.2 日・タイによる協議の概要	14

6.日本側の協力	16
6.1 専門家派遣	16
6.2 機材供与	16
7.研修内容	17
7.1 目的および目標	17
7.2 定員および研修対象者	17
7.3 カリキュラム	17
7.4 協議結果要約	19
8.JTPPに係る三国間協力について	21

付属資料

- 1.タイ第三国集団研修「ラオス実務者向け造林普及技術」事前調査実施に至る経緯
- 2.三者間ミニッツ（写）
- 3.二者間ミニッツ（写）およびR/D（案）

1. 事前調査団の派遣

1.1 派遣の経緯と目的

1.1.1 JTPP（日本・タイ・パートナーシップ・プログラム）の多様化

1994年8月1日、日本とタイはこれまでの技術協力関係を更に発展させ、両国の良好な協力関係によってタイに蓄積された技術をもとに、特にインドシナ諸国を中心とした他の開発途上国の開発に資する協力事業を共同で実施することを、「日本・タイ・パートナーシップ・プログラム（JTPP）」に係るR/Dにて確認・合意した。

JTPP事業の中では、2000年までに第三国集団研修コース数を15コースに拡大するとともに、右研修経費を日本およびタイが均等に負担することを目標に計画が進められている。しかしながら、第三国研修の実施件数の拡大並びにタイ技術・経済協力局（DTEC）、タイ国際研修センター（TITC）構想への専門家派遣による協力以外には目立った進捗が見られず、本事業の主旨である南南協力の促進、タイの援助国化支援といった観点からは不十分な協力状況となっていた。こうした状況から1995年の年次協議の場において、タイ側より、日・タイ合同プロジェクト方式技術協力（プロ技）等の検討が要望された。これに対し、日本から経済協力総合調査団が派遣された際、タイ側と同調査団との間で「パートナーシップの多様化」につき協議がなされた。

JTPPの推進にあたっては、手始めとして、インドシナ3国の中でも言語、文化的背景、自然条件がタイに比較的近く、タイとの人的・経済的交流も活発化しているラオスを有望な協力対象国（被援助国）として想定し、両国における既存の協力スキームを活用しつつ実施可能な案件を形成し、共同実施の枠組みの具体的検討を行なうとの案を取りまとめ、タイ、ラオス両国のJICA事務所を通じ、同案に対する両国政府の意向を確認してきた。

1996年9月には、「日・タイ・パートナーシップ・プログラム」プロジェクト形成調査（プロ形）が実施され、JTPP推進の方向性と方策を検討するとともに、その具体化促進のため、日・タイ共同での案件実施の可能性が最も高いと考えられるラオスを対象とした協力候補案件の発掘・形成と、この実施枠組み案の検討を行なった。本プロ形において我が方より、ラオスのニーズが高いと思われる4分野（保健・医療、農業・農村開発、人材育成、インフラ整備）を提示し、タイ、ラオス双方より、右4分野を協力候補分野とすることで合意を得た。

1997年10月、タイで実施された日・タイ・ラオス三国間協力会議において、JTPPの枠組みの中で実施を要望する対ラオス技術協力に係る年間計画をラオス政府が作成することが合意され、翌年1月にラオスより年間計画案が提出された。右計画の中で、ラオスより

林業分野の研修をタイで実施したい旨の要望が表明された。

1.1.2 派遣の経緯と目的

ラオスにおいては、水源林荒廃の原因となっている過度の焼き畑や不法伐採による森林の減少を抑え、荒廃した森林を復旧するために、1996年7月より日本の技術協力でプロジェクト方式技術協力「森林保全・復旧計画 (FORCAP)」を実施するとともに、1996年10月より、FORCAPのモデル地域であるヴァンヴィエン地域における森林資源の持続的利用、住民生活の向上等を実現させていくための包括的な流域管理計画の策定を目的とした開発調査「ラオス国ヴァンヴィエン地域森林保全流域管理計画調査」を並行的に実施している。右技術協力を一層効果あるものにするために、いかにして技術を普及すべき技術者や普及員を多数養成するかが緊急の課題となっている。

他方、近接するタイにおいては、我が国技術協力〔東北タイ造林普及計画 (1992.4～1997.4) 他〕の成果を基本に置きつつ同国が蓄積してきた林業分野のノウハウは、第三国研修「コミュニティーフォレストリー」(1992～1996) などを通じ周辺国へも再移転され、高く評価されるに至っている。

ラオスにおける多数の技術者養成のニーズに対し、文化的・言語的に類似したタイのリソースを活用したラオス特設型第三国研修の実施が有益と考えられることから、今般、タイ政府より要請のあった第三国集団研修「ラオス実務者向け造林普及技術」の実施について、ラオス側のニーズおよび研修計画の詳細についてラオスおよびタイ側と協議し、その内容について日本、ラオスおよびタイの三者で確認・合意することを目的とし、事前調査団を派遣することとなった。

1.2 調査団の構成

本邦調査団員

団長、総括	三苦 英太郎	国際協力事業団 青年海外協力隊事務局 派遣第一課 課長
森林経営	平井 さおり	林野庁 長野営林局 計画課 経営計画第一係 係長
研修計画	蜂須賀 真由美	国際協力事業団 研修事業部 研修第一課 職員

現地参加調査団員

企画・JTPP	山田 恭稔	国際協力事業団 タイ事務所 企画調査員
---------	-------	---------------------

タイ国現地参加調査団員

タイ技術協力 Mr.Banchong Amomchewin Chief, Japan Sub-Division, Department of Technical and Economic Cooperation (DTEC), Office of the Prime Minister, The Kingdom of Thailand

なお、上記タイ国現地参加調査団員の調査同行に係る経費は、タイDTECが負担した。

1.3 調査日程

日順	月 日	曜日	行 程	業 務
1	5月31日	日	東京 →バンコク	
2	6月1日	月		午前：大使館表敬／タイDTEC, 農業・協同組合省 および王室林野局(RFD)表敬 午後：JICA事務所打合わせ
3	6月2日	火		DTECおよび王室林野局(RFD)とR/D案協議
4	6月3日	水	バンコク →ウドンタニ	研修実施機関（ウドンタニ苗畑センター）視察および研修内容に係る協議
5	6月4日	木	ウドンタニ→ ヴィエンチャン	午前：大使館表敬／JICA事務所打合わせ 午後：ラオス投資・協力委員会(CIC),ラオス林野局 表敬
6	6月5日	金		CICおよびラオス林野局と三国間ミニッツ案協議
7	6月6日	土		プロ技「森林保全・復旧計画」プロジェクト視察
8	6月7日	日		資料整理
9	6月8日	月	ヴィエンチャン →バンコク	午前：日・ラオ・タイによるミニッツ署名 午後：JICA事務所報告、移動
10	6月9日	火		日・タイによるR/D案および二国間ミニッツ案最終協議
11	6月10日	水		午前：日・タイによるミニッツ署名 午後：大使館、JICA事務所に報告
12	6月11日	木	バンコク →東京	

1.4 主要面会者

タイ農業・協同組合省 (Ministry of Agriculture and Cooperatives)

Ms.Sineenart KHOVITOONKIJ	Policy and Plan Analyst, Foreign Agricultural Relations Division, Office of the Permanent Secretary
Mr.Suvat SINGHAPANT	Director, Reforestation Office, Royal Forest Department (RFD)
Mr.Pricha ARAMPHONGPHUN	Director, Forest Nursery Division, Reforestation Office, RFD
Mr.Thirdpong SUPAPERM	REX Project Coordinator, RFD
Ms.Renoo SUWANARAT	REX Project Coordinator, RFD
Mr.Bundit AOBMOO	Chief, Udon Thani Nursery Center, RFD
Mr.Somdet CHAMPEE	Staff, Udon Thani Nursery Center, RFD
井上 康之	JICA専門家, Forest Research Office, RFD

タイ技術・経済協力局 (Department of Technical and Economic Cooperation : DTEC)

Mr.Apinan PATIYANON	Director, External Cooperation Division 1, DTEC
Mr.Banchong AMORNCHWIN	Chief, Japan Sub-Division, DTEC
Mr.Anuman LEELASORN	Staff, Japan Sub-Division, DTEC
武田 慶一	JICA専門家 (Senior Advisor to DTEC)

東北タイ造林普及技術計画(REX)

上澤上 静雄	専門家 (苗畑)
合原 裕人	専門家 (普及、業務調整)
山田 寛和	青年海外協力隊 (造林普及)

在タイ日本大使館

岩濱 洋海	一等書記官
-------	-------

JICAタイ事務所

岩口 健二	所長
林 浩史	所員
山田 恭稔	企画調査員

ラオス投資協力委員会(Committee for Cooperation and Investment : CIC)

Mr.Thongphachanh SONNASINH Director General, Department of International Economic
Cooperation, CIC
Mr.Latsamy KEOMAMY Director, Bilateral Division, CIC

ラオス農業・林業省(Ministry of Agriculture and Forestry)

Mr.Khamphiou VISSAPRA Deputy Director General, Ministerial Cabinet (International
Cooperation and Investment), Cabinet Office
Mr.Soudchay NHOUYRANSRONG Officer, Ministerial Cabinet (International Cooperation and
Investment), Cabinet Office
Mr.Khambai KHAMSANA Head of the Lao-Japan Forestry Cooperation Unit,
Planning, Finance and Co-operation Division, Department
of Forestry
北村 徳喜 JICA専門家, Department of Forestry

ラオス森林保全・復旧計画(FORCAP)

五百木 篤 専門家 (リーダー)

在ラオス日本大使館

坂井 弘臣 特命全権大使
長野 誠司 二等書記官

JICAラオス事務所

高畑 恒雄 所長
熊谷 信広 所員
多田 融右 企画調査員

2. 調査項目概要

2.1 タイ側要請概要

1997年度に実施された「1998年度 第三国集団研修要望調査」時にタイ側より提出された本研修の要請の概要は以下の通りである。

(1) コース名

和文：ラオス実務者向け造林普及技術

英文：Reforestation and Extension Techniques for Lao Forest Practitioners

(2) 実施機関名

和文：タイ国農業・協同組合省 王室林野局

英文：Royal Forest Department, Ministry of Agriculture and Cooperatives,
the Kingdom of Thailand

(3) 目的

農民等の地域住民による森林造成・管理活動等に関連する知識・技術の向上に資する。

(4) 研修目標

森林造成技術（苗畑・造林）、コミュニティーフォレストリー、林業経営、普及技術等に関する技術が修得できる。

(5) 研修内容

講義（苗畑経営、コミュニティーフォレストリー、造林技術、地域社会開発、林業経営、普及手法）

実習（苗畑、造林、果樹栽培等の技術、普及・調査等の地域開発に関する技術）

見学（地域住民による苗畑、造林、天然林保護および林業経営、国立公園等）

ディスカッション

(6) 定員

18人（内訳、ラオス国：15人・タイ国：3人）

(7) 割当国

ラオス

(8) 参加資格要件

- ・当該分野における職歴5年以上
- ・48歳以下
- ・高校卒程度の学力を有すること

(9) 協力期間

1998年度～2000年度（3回）

(10) 研修期間

平成10年11月から12月まで（約1ヵ月間）

(11) 研修施設

王室林野局下のウドンタニ苗畑センター他

(12) 日本人専門家の指導の必要性

必要に応じ要請する

(13) 経費負担

実施経費のうち、タイ側は30%程度の経費負担（コストシェアリング：C/S）が可能

2.2 事前調査調査項目

協議項目	協議細目
1. ラオスの林業の現状およびニーズの把握	1. ラオスの林業の現状 2. ラオスの林業の技術レベル 3. ラオスの林業分野におけるニーズ *どのレベルを対象に、どのような研修内容で研修を実施すればよいか
2. タイ的林業分野の現状	1. タイ的林業分野の現状 2. タイ的林業分野における技術レベル
3. 実施国の実施体制	1. 相手国の協力体制 2. 研修員募集・応募の外交連絡ルート 3. DTEC及び実施機関との業務分担
4. 実施機関の運営管理能力	1. 実施機関の組織と実施担当部署 *実施機関及び部署の組織図、実施責任者、スタッフの人数 2. 実施機関の施設および設備 3. 事務管理スタッフの人数、担当業務 4. 事務機器・通信機器の整備状況 5. 研修員の選考方法 6. 初年度研修開始までのスケジュール
5. 実施機関の研修実施能力	1. 同種研修の実施経験 2. 講師の人数、経験年数、研修を担当した経験があるか、ラオスの事情に詳しいか 3. 施設（研修室、実習室）の概要 4. 保有機材の状態 *プロ技でどのような機材が供与されているか 5. 教材の有無および作成能力 *何語の教材か
6. 生活環境	1. 宿泊施設の場所、料金 2. 交通手段 *陸路で入国の際の車輦の手配、宿舍から研修機関までの移動手段 3. 医療事情（受けられるサービスの内容）
7. 研修計画	1. タイトル、目的、到達目標 2. ターゲットグループ 3. 資格要件 4. カリキュラム 5. 定員 6. 研修期間、時期 7. 協力期間 8. 日本人専門家派遣 *希望人数、分野、期間および講義の際の使用言語 9. 基盤整備機材の必要性 10. 応募手続きおよび業務分掌、経費関係事務手順
8. 予算措置	1. DTECの予算措置（年間予算額および本研修への割当予算額） *業務1部と業務3部の関係を確認する 2. 実施経費見積書 *予算項目がJICA基準と一致しているか 3. コスト・シェアリング *DTECの負担率を確認する
9. 三国間協力の枠組み	1. 三国間協力（南南協力）のタイ側のコミットメントのあり方の確認 2. 経費負担のあり方 *三国間協力と他の第三国研修を別に考えるのか、同様に扱うのか 3. 実施に係る手続き・協議はどのように行うか 4. 実施結果の評価およびフィードバックはどのように実施するか

3. ラオス国側のニーズと案件の妥当性

3.1 ラオス国側の林業分野研修ニーズ

ラオスは、国土の75%が標高500m～2500mの山地で占められている山岳国である。森林については、1940年には国土面積の70%（1,700万ha）を占めていた。しかし、1989年現在で、その割合は47%（1,120万ha）にまで減少している。その原因として、農業に生活を依存する人口の比率が高いにもかかわらず、農業に適した土地が少なく、近年の人口増加に伴い、焼畑による森林の農地化が、特に北部・中部で過剰に進んでいることおよび森林の不法伐採が挙げられる。同国では、水力発電による余剰電力の輸出が重要な外貨獲得手段であり、水源となる森林の荒廃や減少は土壌浸食を引き起こし、水力発電阻害への原因となることが問題になっており、早急に対応することが必要とされている。

造林は1942年にチャンパサック県で行われたチークの植栽が最初とされているが、本格的に実施されるようになったのは1960年代からである。造林面積は近年の造林奨励策により増加しているが、1996年度の造林面積は11,000ha、累積で約30,000haと充分とはいえない。また、造林の歴史が浅いため、森林を持続可能な方法で適切に管理するための施業体系が確立されていない。

同国では森林保全のための各種プロジェクト等が実施されているが、その効果を十分なものにするには郡や県等の地方レベルの機関での技術者が欠かせない。しかし、それらの地方機関では、技術・知識を備えた人材が、質・量共に不足している状況であり、技術者育成のニーズは非常に高い。

3.2 実施国（タイ）の現状

本研修の実施国であるタイにおいては、1961年に国土面積の53%（2,736万ha）を占めていた森林が1991年には27%（1,367万ha）と大幅に減少した。これはチークやローズウッドなどの高級材を産するための森林資源の開発及び農地への転換によるところが大きい。特に、東北タイにおいてチーク伐採業が盛んであった。このため、林業政策を大幅に見直し、国土の40%を森林に回復することを目標とする「国家森林政策」が1985年に制定された。その後引き続き、森林保全・森林造成のための政策、プロジェクト等が各種機関により実施されているところである。

それらのプロジェクトのひとつがJICAのプロジェクト方式技術協力「東北タイ造林普及計画（REX）」である。このプロジェクトは「東北タイにおける環境回復と地域住民の生

活向上に資するため、社会林業の発展を通じて地域住民による造林活動の推進を図ること」を目的としている。このREXの活動の一部として建設された4箇所の大規模苗畑センターのうち、ウドンタニにある苗畑センターが本研修の実施施設の中心となる。同センターのトレーニングセッションでは林業従事者、村やコミュニティーのリーダー等を対象に林業技術の普及活動を行っている。また、タイでは1992年より1996年まで第三国集団研修「コミュニティフォレストリー」コースが実施され、タイの有する林業技術等は周辺国から高い評価を受け、引き続きタイ側のリソースの活用が望まれているところである。

ラオスと自然環境、言語等が類似しており、同国と同様に森林の急激な減少を経験し、その回復及び造林技術の向上に努めているタイにおいて第三国研修を実施することの意義は大きい。

4. 第三国研修実施体制

4.1 タイ技術・経済協力局 (DTEC)

通常、タイ国で実施される第三国集団研修はDTECの対外協力業務第三部 (External Cooperation Division III) が所管しているが、タイ側が日本・ラオス・タイによる本研修を日本・タイ・パートナーシップ・プログラム(JTPP)の共同プロジェクトと位置付けていることから、本研修は日本課を有する対外協力業務第一部 (External Cooperation Division I) が所管することとなった。

DTECは、G.Iの作成・送付、受入回答等の受け入れに係る手続きを、同国の外交ルートを通じてラオス政府に対して行なうとともに、JTPPに基づき、本研修においても研修実施に係る経費は日本とタイのコストシェアリング (C/S) とすることで合意した。本研修は、JTPP下で実施される初の日・タイ・ラオス三国間協力であり、また、本件実施の背景として、1996年12月に実施されたプロ形調査において、日・タイがパートナーとして事業を実施していくことが合意されており、右趣旨に則り、協議では50%の負担を求めたが、タイ側の1999年度予算は極めて厳しい状況とのことであり、第1回目実施については、日本側75%、タイ側25%のC/Sとし、今後タイの経済状況に応じ、徐々にタイ側の負担率を増加させていくこととした。

DTEC対外協力業務第一部日本課が第三国集団研修を実施するのは本研修が初めてであり、研修の運営に関しては不慣れな面もあることから、日本側からの進捗の確認およびJICA事務所を通じた実施手順に関する助言が必要であろう。

4.2 王室林野局 (RFD)

本研修の実施機関は、プロ技「東北タイ造林普及技術計画 (REX)」の担当課である、王室林野局・造林部 (Reforestation Office)・苗畑課 (Forest Nursery Division)である。苗畑課が第三国研修を実施するのは今回が初めてだが、同課の管轄下にあるウドンタニ苗畑センターでは、下記に述べるように各種研修を実施した経験を有しており、研修コース運営上の問題はないと思われる。

ウドンタニ苗畑センター

ウドンタニ苗畑センターはタイ北部の7州を管轄しており、上記プロ技の活動として、苗畑の生産、地域住民への苗木の無償配布、研修コースの運営等を実施している。センターには、11名の常勤職員、25名の契約職員がいる。その他のセンターの労働者数は当該年度の予算によって変動する。

センターで配る苗木の樹種は、7州にアンケートを配布しその結果によって決めており、ユーカリのような早生樹に人気があるということである。

センターのトレーニングセクションでは、地域森林行政官および村やコミュニティーのリーダーを対象に、Nursery and Plantation Techniques およびAgro-forestryのトレーニングを行っている。昨年度 (1997年度) は年7コースを実施しており、今年は年4コースを実施する予定である。

5. 協議内容

5.1 我が方対処方針

本調査団は、実施国であるタイ国関係機関と以下の方針に基づき協議し、この合意事項を更にラオス側関係者と協議し、三者により合意された研修計画につき、合意議事録 (ミニッツ) として三者間で署名することとした。

5.1.1 コース内容 (下線部はタイ側要請との変更点)

(1) コース名

タイ側から要請のあった"Reforestation and Extension Techniques for Lao Forest Practitioners"を"Reforestation and Extension Techniques for Lao Foresters"とする。

(2) 実施機関名

要請通りとする。(農業・協同組合省 王室林野局)

(3) 目的

「ラオス国林業実務者を対象とし、農民等の地域住民による森林造成・管理活動・普及等に関連する技術知識の向上を図り、回国の林業資源の持続的利用と保全に係る人材の育成を図ることを目的とする」とする。

(4) 研修目標

「森林造成技術(苗畑、造林)および普及手法、林業経営、コミュニティー・フォレストリー、地域社会開発、森林保全の果たす環境上の重要性に関する知識・技術が修得できる」とする。

(5) 研修内容

タイ実施機関より提出予定の具体的なカリキュラム(案)を基に検討する。

(6) 定員

要請通り(15人)とするが、タイ側の経費見積りにはタイ側の参加者が3名含まれており、再度確認が必要である。

(7) 割当国

要請通りとする。(ラオス)

(8) 参加資格要件

要請通りとする。

(当該分野における職歴5年以上、48歳以下、高校卒業程度の学力を有するもの)

(9) 協力期間

要請通り(1998年度~2000年度)とするが、3年間でのラオスのニーズ充足度(研修成果)をラオス側に確認し、必要であればタイ側と協力期間を5年間にすることを検討する。

(10) 研修期間

1998年11月から12月までの約1ヶ月。タイ側との協議次第で変更になる可能性がある。

(11) 研修施設

要請通りとする(ウドンタニ苗畑センター)。

(12) 専門家派遣

必要に応じ派遣する(コース評価、環境保全分野)

(13) 基盤整備機材

必要性を確認する。

5.1.2 事務手続き

(1) 応募方法

タイで実施されている通常の第三国研修通りとする。

(2) 業務分掌

タイで実施されている通常の第三国研修通りとする。

(3) 経費事務手順

タイで実施されている通常の第三国研修通りとする。

5.1.3 経費負担

(1) タイ側の予算措置状況を再確認する。

(2) JTPP下での初の日・タイ・ラオス三国間協力であり、タイ側の本件実施に対する特別の配慮を期待する。また、本件実施の背景として、1996年12月に実施されたプロ形調査において、日・タイがパートナーとして事業を実施していくことが合意されており、右趣旨に則り、協議では50%の研修実施経費の負担を求めるが、タイ側次年度予算は極めて厳しい状況とのことであり、第1回目実施については、日本70%、タイ30%の負担率で、かつ、日本側負担1000万円以内として実施するものとする。尚、本事項は、日・タイ間の確認事項として別途ミニッツで確認する。

(3) 経費項目については、他の第三国研修と統一する。

5.1.4 ミニッツ

本研修は日・タイ・ラオス三国間協力のもとで実施されるため、日・タイ・ラオス三者間でミニッツの署名・交換を行なうことが必要であると関係各国において認識された。そのため、ヴィエンチャンにおいて協議された事項については、日・ラオ・タイ三者にて署名し、バンコクにおいて協議された研修実施経費の負担率を含む事項については、日・タイ二者にて署名することとする。

5.1.5 その他確認事項

本件は、JTTP下で初の日・タイ・ラオス三国間協力の研修となるため、今後の類似案件実施にあたり、モデルとしての役割を果たすことが予想される。よって、本調査においては下記についても協議する。

- (1) タイ側の南南協力へのコミットメントの在り方
- (2) 経費負担の在り方
- (3) 実施に係る手続き、協議等の手順
- (4) 実施結果の評価とフィードバック体制

5.2 主な協議内容・変更点

5.2.1 日・ラオス・タイ三者による協議の概要

日・ラオス・タイ三者による協議の結果は、6月8日ヴィエンチャンにおいて三者で署名したミニッツにて合意された。主な協議内容および合意事項は以下の通りである。

- (1) 協力期間は3年とし、各年の定員はラオス側参加者15名、タイ側参加者3名とする。
- (2) 3年間の協力期間終了時には、日・ラオ・タイ三者による合同終了時評価調査団の派遣の必要性が確認された。

5.2.2 日・タイによる協議の概要

日・タイによる協議の結果は、6月10日バンコクにおいて署名されたミニッツにて合意された。主な協議内容および合意事項は以下の通りである。

(1) JTTPについて

本事前調査団の派遣は、1994年8月1日に署名されたJTTPに係るR/Dに基づいて実施されたことをミニッツおよびR/Dに明記する。

(2) 研修時期について

当初はタイ側からの要望調査表に基づいて本年度（1998年度）11月の研修実施を予定していたが、第1回目の日・タイ協議において、DTECより、DTECの来年度予算（1998年10月～1999年9月）がどの程度になるか不透明なため、研修時期を8月から9月とし、タイの来年度の会計年度が始まる10月までにはコースを終了したい旨の提案があった。

これに対し、実施機関である王室林野局(RFD)より、8月は研修受入機関であるウッドニ苗畑センターがプロ技「東北タイ造林普及技術フェーズ2」事前調査団受入、センター主催の研修コースの実施等により本第三国研修の準備に専念できないこと、タイ語テキストのラオ語への翻訳に時間を要すること、9月は視察を予定しているチェンマイ周辺が雨期に入るため研修計画を変更しなければならないこと、等の理由により、当初の予定通り、研修時期を11月にしたい旨の見解が出された。

しかし、第2回目の協議においても、9月末までに研修を終了したいというDTECの見解は変わらず、協議の結果、研修時期は本年度8月から9月とすることで合意した。

なお、研修時期については、来年度（1999年度）以降も同時期の実施となるのか、再度確認する必要がある。

(3) 経費について

本研修に係る総研修経費（案）は約730万円であり、その内日本側負担が74%（540万円）、タイ側負担が26%（190万円）となっている。今般のタイの経済状況を鑑みるに、タイ側の経費負担への努力が推察された。第1回目の実施は原則この負担率で実施することを合意した。

また、JTPPの主旨に則り、経済状況に応じてタイ側のコストシェアリング率を上げていくことをミニッツで確認した。

(4) コースの評価について

本研修実施の過程で得られた教訓を、今後日・タイおよび第三国で実施される三国内研修コースの計画・実施にフィードバックするため、本研修の1年目が終了した時点で、日・タイによる話し合いを持つことで両者合意した。

6.日本側の協力

6.1 専門家派遣

本研修は、基礎的な造林およびその普及に関する技術の習得を目的としており、プロ技による技術移転を受けたタイ側講師で講義、実習ともに対応可能であると判断される。また、本研修の使用言語がラオ語およびタイ語となるため、日本人専門家が派遣された際には通訳を介して講義を行わなければならない、そのような状況で特定科目を指導することは困難が伴うと思われる。

ただし、本研修においては、タイ側講師のラオス研修員に対する心情的配慮およびラオスの林業分野に対する知識が研修の成否を左右すると思われるため、ラオスの心情に配慮し、ラオスの実情に即した研修コースの運営が行なわれるようタイ側講師にアドバイスを与えるコースコーディネーター的役割を果たす専門家の派遣が有益であると考えられる。本件については、日本側の提案としてタイ側に伝え、タイ側もこれを理解した。

6.2 機材供与

研修実施機関であるウドンタニ苗畑センターには、プロ技「東北タイ造林普及技術(1992.4～1997.3、フォローアップ期間 1997.4～1998.9)」によって供与された機材があり、研修実施に支障はないと思われる。

機材の供与に関しては、1998年度より第三国研修に必要な経費として研修基盤整備機材費が認められたことにより、研修をさらに効果的に実施するために必要な機材があればリストを提出するようタイ側へ提案した。

7. 研修内容

本研修内容は、タイ王室林野局より提示された要請を基に、日本・ラオス・タイ三者間で協議を行ない、取りまとめたものである。

7.1 目的および目標

本研修は、ラオス国林業実務者を対象とし、農民等の地域住民による森林造成・管理活動・普及等に関連する技術知識の向上を図り、同国の林業資源の持続的利用と保全に係る人材の育成を図ることを目的とする。

研修目標は、「森林造成技術（苗畑、造林）および普及手法、林業経営、コミュニティー・フォレストリー、地域社会開発、森林保全および流域管理の果たす環境上の重要性に関する知識・技術が修得できる」こととする。

7.2 定員および研修対象者

本研修の定員は、ラオス15名、タイ3名の計18名とする。ラオスにおける本研修対象者は、林業に携わる郡や県の中堅職員とし、ラオス側より、造林が緊急の課題となっている北部および中部の8州から優先的に選出することが提案された。

7.3 カリキュラム

研修カリキュラムは、以下の6つに大きく分けられる。本研修は林業分野に携わる実務者を対象としており、実習や視察（フィールドトリップ）に重点を置いた結果、講義、実習および視察の配分は、それぞれ3：3：4程度となった。（カリキュラムの詳細は、別添ミニッツ中のカリキュラム（案）を参照願いたい。）

講義および実習を担当する講師は、主にウドンタニ苗畑センターの講師だが、必要に応じ、王室林野局からも講師を招へいする予定である。

(1) イントロダクション

研修目的や進め方等を示すオリエンテーションの後、タイ及びラオスの森林に歴史・その現状について、互いにカントリーレポートのプレゼンテーションを行う。その中で、現在、タイの各地で試みられている森林組合についても触れることとする。また、社会林業の概念等について学ぶ。

(2) 普及手法に関する講義

普及の場、対象等を想定し、林業の手法や関連する概念等を効果的に普及させるための手法などについて研修する。

(3) 造林手法に関する講義

種子の取り扱い・苗木の生産・植林・植林後の技術等の基本的な手法をはじめ、ある土地から林産物、農産物、畜産物等を収穫しようとする複合的土地利用の一形態であるアグロフォレストリーの手法について研修する。

さらに、樹種については、アカシア マンギウム（痩せた土地を肥沃にするマメ科植物）、チーク（高級材であり、農民の造林意欲が高いラオスの郷土樹種）、ユーカリ（パルプ用材としての需要が高い早世外来樹種）に関する知識が特にラオスでは必要とされている。これらの樹種の特性等についても講義内容に含むものとする。

(4) 実習

普及手法及び造林手法について講義で学んだことを実践することにより、手法を確実に身につける。

(5) フィールド・トリップ

関連する各種機関やプロジェクト、民間造林地・苗畑等を視察する。また、視察先の近くの村の住民との対話の機会を設けることにする。タイにおける森林保全、復旧の取り組みを目にすることにより、講義で得た知識を確実なものにし、自国における取り組みのための参考とする。

(6) 普及活動計画の策定

研修で得たことの基つき、参加者が自国において、農村等で普及活動を行うための活動計画を策定する。

研修の最後には研修の内容等に関して評価を行うこととする。評価の結果を次回のカリキュラムの作成に役立てることが重要である。

7.4 協議結果要約

項目	要請内容	我が方の対処方針	協議結果
コース名称	和文：ラオス実務者向け 造林普及技術 英文：Reforestation and Extension Techniques for Lao Forest Practitioners	和文：ラオス実務者向け 造林普及技術 英文：Reforestation and Extension Techniques for Lao Foresters	和文：ラオス実務者向け 造林普及技術 英文：Reforestation and Extension Techniques for Lao Foresters
目的	農民等の地域住民による森林造成・管理活動等に関連する知識・技術の向上に資する。	農民等の地域住民による森林造成・管理活動・普及等に関連する技術知識の向上を図り、同国の林業資源の持続的利用と保全に係る人材の育成を図ることを目的とする	農民等の地域住民による森林造成・管理活動・普及等に関連する技術知識の向上を図り、同国の林業資源の持続的利用と保全に係る人材の育成を図ることを目的とする。
研修対象者	記述なし	ラオス国林業実務者	本研修対象者は、林業に携わる郡や県の中堅職員（林業実務者）とし、ラオス側より、造林が緊急の課題となっている北部および中部の8州から優先的に選出することが提案された。
協力期間	1998年～2000年 (3回)	要請通りとするが、3年でラオスのニーズが充足するのラオス側に確認し、必要であればタイ側と協力期間を5年間にすることを検討する。	1998年～2000年 (3回)
研修目標	森林造成技術（苗畑・造林）、コミュニティーフォレストリー、林業経営、普及技術等に関する技術が修得できる。	森林造成技術（苗畑、造林）および普及手法、林業経営、コミュニティー・フォレストリー、地域社会開発、森林保全の果たす環境上の重要性に関する知識・技術が修得できる	森林造成技術（苗畑、造林）および普及手法、林業経営、コミュニティー・フォレストリー、地域社会開発、森林保全および流域管理の果たす環境上の重要性に関する知識・技術が修得できる
研修期間	1998年11月から12月まで（約1ヵ月間）	要請通り。タイ側との協議次第で変更になる可能性がある。	研修時期を8月から9月とし、タイの来年度の会計年度が始まる10月までにコースを終了する
カリキュラム	講義（苗畑経営、コミュニティーフォレストリー、造林技術、地域社会開発、林業経営、普及手法） 実習（苗畑、造林、果樹栽培等の技術、普及・調査等の地域開発に関する技術） 見学（地域住民による苗畑、造林、天然林保護および林業経営、国立公園等）	タイ実施機関より提出予定の具体的なカリキュラム(案)を基に検討する。	(1) イントロダクション (2) 普及手法に関する講義 (3) 造林手法に関する講義 (4) 実習 (5) フィールド・トリップ (6) 普及活動計画の策定
割当国	ラオス	要請通り。	ラオス
定員	18人（ラオス国：15人・タイ国：3人）	タイ研修員の参加の有無につき、確認が必要	18人（ラオス国：15人・タイ国：3人）

項目	要請内容	我が方の対処方針	協議結果
資格要件	・当該分野における職歴 5年以上 ・48歳以下 ・高校卒程度	要請通り	・当該分野における職歴5年以上 ・48歳以下 ・高校卒程度の学力を有する
実施機関	王室林野局・ウドンタニ苗圃センター	要請通り	王室林野局・ウドンタニ苗圃センター
応募手続き業務分掌、経費事務手順	記述なし	タイで実施されている通常の第三国研修通りとする。	対処方針通り
専門家派遣	必要に応じ要請する	必要に応じ派遣する（コース評価、環境保全分野）	ラオスの実情に即した研修コースの運営が行なわれるようタイ側講師にアドバイスを与えるコースコーディネーター的役割を果たす専門家の派遣が有益である。
基盤整備機材	記述なし	必要性を確認する。	効果的な研修の実施に必要な機材があればリストを提出するようタイ側へ提案した。
経費負担(C/S)	実施経費のうち30%のC/Sが可能	(1) タイ側の予算措置状況を再確認する。 (2) タイ側に50%の研修実施経費の負担を求め、タイ側次年度予算は極めて厳しい状況とのことであり、第1回目実施については、日本70%、タイ30%の負担率でかつ、日本側負担1000万円以内として実施するものとする。尚、本事項は、日・タイ間の確認事項として別途ミニッツで確認する。 (3) 経費項目については他の第三国研修と統一する。	本研修に係る総研修経費(案)は約730万円であり、その内日本側負担が74%(540万円)、タイ側負担が26%(190万円)となっている。今般のタイの経済状況を鑑みるに、タイ側の経費負担への努力が推察される。 また、JTTPの主旨に期り、経済状況に応じてタイ側のコストシェアリング率を上げていくことをミニッツで確認した。
ミニッツ		ヴィエンチャンにおいて協議された事項については、日・ラオ・タイ三者にて署名し、バンコクにおいて協議された研修実施経費の負担率を含む事項については、日・タイ二者にて署名することとする。	対処方針通り
JTTPに係る三国間協力について		(1) タイ側の南南協力へのコミットメントの在り方 (2) 経費負担の在り方 (3) 実施に係る手続き、協議等の手順 (4) 実施結果の評価とフィードバック体制	タイ側より三国間協力の枠組みを決めるには時期早尚との見解が出され、今回の調査では枠組みの構築には至らなかったが、本研修の成果および反省点を今後の類似案件に活かすため、コース1年目が終了した時点で、日・タイで再度協議の場を設けることをミニッツで確認した。

8. JTPPに係る三国間協力について

本件は、JTPP下で初の日・タイ・ラオス三国間協力の研修となるため、本調査では三国間協力に係る日・タイの経費負担の在り方、実施に係る手続き・協議等の手順、実施結果の評価とフィードバック体制等についても協議した。タイ側より三国間協力の枠組みを決めるには時期早尚との見解が出され、今回の調査では枠組みの構築には至らなかったが、本研修の成果および反省点を今後の類似案件に活かすため、コース1年目が終了した時点で、日・タイで再度協議の場を設けることをミニッツで確認した。

付属資料

タイ第三国集団研修「ラオス実務者向け造林普及技術」事前調査実施に至る経緯(まとめ)

年月	研修事業部	JTPP	FORCAP
1994年8月1日		JTPPに係るR/D署名	
1996年3月	ラオスへ特別案件調査団派遣		
1996年7月			プロジェクト開始
1996年9月		JTPP プロ形調査団派遣	
1996年10月		ラオスCIC,ラオス政府関係者REX訪問	+ 技術交換費にてREX訪問
1996年12月	タイが新規第三国研修「造林普及技術」要請(対象国18ヶ国)		
1997年1月	上記研修を対ラオス案件として検討する旨タイへ通報	日・タイ・ラオス三国間協力推進のため、タイ事務所より企画調査員がラオスへ出張。REX桂川専門家およびタイ側CAP 2名が技術アドバイザーとして同行 FORCAP視察	
1997年4月	研修事業部よりラオス事務所へ本研修について説明		
1997年5月	ラオス政府、本研修実施について了承		
1997年10月		ラオスCIC局長タイ訪問(日・タイ・ラオス三国間協力会議)	
1998年1月		ラオス、JTPPに係る年間計画を提出	
1998年3月			FORCAP主催ワークショップへREXウドンタニ苗畑センターから2名のリソースパーソンを派遣
1998年5月～6月	本件事前調査団派遣		

MINUTES OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JOINT PRELIMINARY STUDY TEAM
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF
THE GOVERNMENT OF THE LAO PEOPLE'S DEMOCRATIC REPUBLIC
ON THE TRAINING COURSE
UNDER JAPAN-LAO-THAI COOPERATION

The Joint Preliminary Study Team (hereinafter referred to as "the Team"), jointly organized by both the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and the Department of Technical and Economic Cooperation (hereinafter referred to as "DTEC") of Thailand and headed by Mr. Eitaro Mitoma of JICA, visited the Lao People's Democratic Republic (hereinafter referred to as "the Lao PDR") from June 4 to June 8, 1998 for the purpose of working out the details of the training course concerning Reforestation and Extension Techniques for Lao Foresters (hereinafter referred to as "the Course") under Japan-Lao-Thai Cooperation.

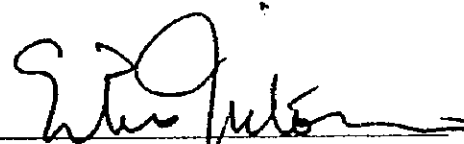
During its stay in the Lao PDR, the Team held a series of discussions and exchanged views with the Lao authorities concerned in respect of desirable measures by all the three Governments for successful implementation of the Course.

As a result, all the parties expressed the willingness to mutually cooperate and agreed to recommend to their three respective Governments the matters stated in the document attached hereto.

Vientiane, June 8, 1998

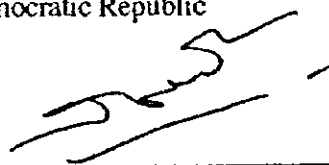


Mr. Khamphiou VISSAPRA
Deputy Director-General,
Cabinet Office,
Ministry of Agriculture and Forestry,
Lao People's Democratic Republic



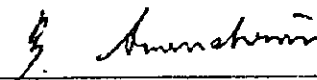
Mr. Eitaro MITOMA
Leader,
Joint Preliminary Study Team,
Japan International Cooperation Agency,
Japan

Witnessed by



Mr. Latsamy KEOMANY
Director,
Bilateral Economic Cooperation Division,
Department of International Economic
Cooperation,
Prime Minister's Office,
Lao People's Democratic Republic

Witnessed by



Mr. Banchong AMORNCHWIN
Chief,
Japan Sub-Division,
Department of Technical and
Economic Cooperation,
Office of the Prime Minister,
The Kingdom of Thailand

ATTACHED DOCUMENT

The Government of Japan, the Government of the Lao PDR, and the Government of the Kingdom of Thailand will mutually cooperate in organizing a training course in Thailand for Lao foresters in the field of reforestation and extension techniques (hereinafter referred to as "the Course") under Japan-Lao-Thai Cooperation.

The Government of the Kingdom of Thailand will conduct the Course with the support of the technical cooperation scheme of the Government of Japan. The Course will be held once a year from the Japanese Fiscal Year (JFY) 1998 to JFY 2000 under JICA's Third Country Training Programme.

The Course will be conducted in accordance with the followings :

1. TITLE

The Course will be entitled "Reforestation and Extension Techniques for Lao Foresters".

2. PURPOSE

The purpose of the Course is to provide participants from the Lao PDR with an opportunity to improve the techniques of reforestation, forest management, and extension, and the sustainable utilization of forest, in order to contribute to encourage local people's reforestation activities in the context of community development.

3. OBJECTIVES

At the end of the Course, the participants are expected to have acquired;

- 3-1 reforestation techniques including nursery management;
- 3-2 agroforestry and other related forestry techniques;
- 3-3 forest and other related species such as fruit tree management systems;
- 3-4 community-based natural resources management and development;
- 3-5 extension methods to local people; and
- 3-6 knowledge concerning forest conservation and watershed management.

4. DURATION

The duration of the Course will be approximately five (5) weeks, and the Course for JFY 1998 will be held from August - September, 1998.

5. NUMBER OF PARTICIPANTS

The number of participants shall not exceed fifteen (15) in total from the Lao PDR.



6. QUALIFICATION FOR APPLICANTS

Applicants for the Course are :

- 6-1 to be nominated by the Government of the Lao PDR in accordance with procedure stipulated in 8-1 below;
- 6-2 to be not over forty-eight (48) years of age;
- 6-3 to have practical experience of more than 5 years in the field of forestry practice; and
- 6-4 to be in good health, both physically and mentally, in order to complete the Course.

7. FACILITIES AND INSTITUTIONS

The Course will be given by the Royal Forest Department (RFD), the Government of the Kingdom of Thailand. Facilities of RFD's Udon Thani Nursery Center will be primarily utilized for the Course.

8. APPLICATION PROCEDURE

- 8-1 The Government of the Kingdom of Thailand shall notify the date of the commencement of each course to the Government of the Lao PDR not later than ninety (90) days before the commencement of the Course.
- 8-2 The Government of the Lao PDR on behalf of its nominees shall forward three (3) copies of the prescribed application from each nominee to the Government of the Kingdom of Thailand not later than sixty (60) days before the commencement of the Course.
- 8-3 The Government of the Kingdom of Thailand shall inform the acceptance of participants to the Government of the Lao PDR not later than thirty (30) days before the commencement of the Course.

9. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF JAPAN, THE GOVERNMENT OF THE LAO PEOPLE'S DEMOCRATIC REPUBLIC, AND THE GOVERNMENT OF THE KINGDOM OF THAILAND

In organizing and implementing the Course, the authorities concerned will take the following measures in accordance with the relevant laws and regulations in force in each country.

9-1 The Government of the Lao PDR

- (1) To submit application forms of prospective participants to the Government of the Kingdom of Thailand through its diplomatic channels.
- (2) To provide domestic travel allowance within the Lao PDR to the participants.



- (3) To ensure that knowledge and skills obtained by the participants through the Course will be utilized and disseminated for reforestation in the Lao PDR.

9-2 The Government of the Kingdom of Thailand

To formulate and conduct the Course in accordance with the procedure of JICA's Third Country Programme, with bearing some portion of the following expenses that are consulted with the Government of Japan each year:

- a) Expenses relevant to participants such as accommodations, per-diem and medical treatment for participants.
- b) Expenses relevant to the RFD such as study tour(s), texts, teaching aids, expendable supplies, copies and honoraria for external lecturer(s).

9-3 The Government of Japan

(1) To dispatch Japanese short-term expert(s), in accordance with the regular procedure of its technical cooperation scheme, who will give advice to the RFD and deliver some lectures on such subjects as mentioned in ANNEX I. This, however, is subject to the availability of the JICA budget for this purpose and the number of suitable expert(s) in Japan.

(2) To bear some portion of the following expenses, to be consulted between the Government of the Kingdom of Thailand and the Government of Japan, through JICA:

- a) Expenses relevant to participants such as accommodations, per-diem and medical treatment for participants.
- b) Expenses relevant to the RFD such as study tour(s), texts, teaching aids, expendable supplies, copies and honoraria for external lecturer(s).

10. REVIEW AND EVALUATION

- 10-1 At the end of each Course, its contents and procedure are jointly reviewed by the concerned parties among the three respective Governments.
- 10-2 At the end of the cooperation period, a joint evaluation team consisting of the three respective Governments need to be formulated to evaluate effects of the Course.

ANNEX I : Tentative Contents of Training Course on Reforestation and Extension Techniques for Lao Foresters

ANNEX II : List of the Attendants at the Meetings



**TENTATIVE CONTENTS OF TRAINING COURSE ON REFORESTATION AND
EXTENSION TECHNIQUES FOR LAO FORESTERS**

1. INTRODUCTION

- 1.1 Orientation
- 1.2 History and Current Condition of Forest in Thailand and Lao PDR
- 1.3 Concepts of Social/Community Forestry
- 1.4 Community-based Natural Resource Management (including Participatory Rural Appraisal)

2. LECTURE ON EXTENSION TECHNIQUES

- 2.1 Principle of Extension
- 2.2 Extension in School and Public Festival
- 2.3 Extension Through Community Forest
- 2.4 Extension Through Training (Target, People, Subject and Curriculum)

3. LECTURE ON REFORESTATION TECHNIQUES

- 3.1 Seed Handling
- 3.2 Nursery Techniques
- 3.3 Agroforestry
- 3.4 Afforestation Techniques
- 3.5 Plant Breeding Techniques
- 3.6 Vegetative Propagation
- 3.7 Silviculture Measures for Plantation

4. PRACTICE

- 4.1 Seed Handling
- 4.2 Nursery Techniques
- 4.3 Tray Afforestation Techniques
- 4.4 Plant-Breeding Techniques
- 4.5 Extension Techniques
- 4.6 Training Techniques
- 4.7 Participatory Rural Appraisal

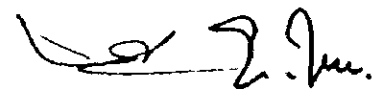
5. FIELD TRIP

- 5.1 Pine Improvement Center
- 5.2 Teak Improvement Center
- 5.3 Phu Wiang Watershed Development Project
- 5.4 Khao Kho Resettlement Project
- 5.5 Sam Mun Highland Development Project
- 5.6 Thai-German Highland Development Project
- 5.7 Afforestation and Private Nursery Managed by Villagers Themselves
- 5.8 Other King's Projects

6. PLAN OF ACTION

Presentation of Plan of Action and Discussion

7. EVALUATION

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'W. J. J.', is located in the bottom right corner of the page.

LIST OF THE ATTENDANTS AT THE MEETINGS

Mr.Thongphachanh SONNASINH	Director General, Department of International Economic Cooperation, Committee for Cooperation and Investment (CIC), the Prime Minister's Office
Mr.Latsamy KEOMAMY	Director, Bilateral Division, CIC, the Prime Minister's Office
Mr.Soukhavy KEOLA	Director General, Ministry of Foreign Affairs(MFA)
Mr.Somphone LEUANGTAKOUNE	MFA
Mr.Khamphiou VISSAPRA	Deputy Director General, Ministerial Cabinet (International Cooperation and Investment), Cabinet Office, Ministry of Agriculture and Forestry (MAF)
Mr.Soudchay NHOUYRANSRONG	Officer, Ministerial Cabinet (International Cooperation and Investment), Cabinet Office, MAF
Mr.Thongsoune BOUNPHASAYSOL	Head, International Division, MAF
Mr.Bounthong XAYSIDA	Deputy Director, Department of Forestry, MAF
Mr.Khambai KHAMSAANA	Head of the Lao-Japan Forestry Cooperation Unit, Planning, Finance and Co-operation Division, Department of Forestry, MAF
Mr.KITAMURA Noriyoshi	Senior Forestry Adviser to Department of Forestry, MAF, JICA
Mr.IOKI Atsushi	Leader, FORCAP
Ms.KOMOTO Jumko	Coordinator, FORCAP
Mr.Banchong AMORNCHWIN	Chief, Japan Sub-Division, DTEC
Ms.Jiraparn TILAPORN	First Secretary, Embassy of the Kingdom of Thailand
Mr.NAGANO Seiji	Second Secretary, Embassy of Japan
Mr.TAKAHATA Tsuneo	Resident Representative, JICA Laos Office
Mr.KUMAGAI Nobuhiro	Assitant Resident Representative, JICA Laos Office
Mr.TADA Yusuke	Project Formulation Advisor, JICA Laos Office
Mr.Sophonh	Staff, JICA Laos Office

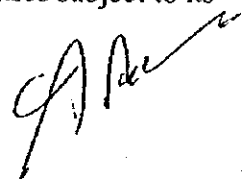
Mr.MITOMA Eitaro	Leader, Joint Preliminary Study Team, Japan International Cooperation Agency (JICA)
Ms.HIRAI Saori	Chief of National Forest Management Planning Section, Planning Division, Nagano Regional Office
Ms. HACHISUKA Mayumi	Staff, First Training Division, Training Affairs Department, JICA
Mr.YAMADA Yasutoshi	Project Formulation Adviser, JICA Thailand Office

Handwritten signature and initials, possibly reading "W. S. M." or similar.

MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPANESE PRELIMINARY SURVEY TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF
THE GOVERNMENT OF THE KINGDOM OF THAILAND
ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME
UNDER JAPAN-LAO-THAI COOPERATION

1. In accordance with the Record of Discussions on Japan-Thailand Partnership Programme in Technical Cooperation signed on August 1st, 1994, the Japanese preliminary survey team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Eitaro Mitoma, visited the Kingdom of Thailand and the Lao People's Democratic Republic (hereinafter referred to as "the Lao PDR") from May 31st, 1998 to June 11th, 1998 in order to discuss with the authorities concerned of the Kingdom of Thailand and the Lao PDR a training course for participants from the Lao PDR in the field of reforestation and extension techniques (hereinafter referred to as "the Course") under JICA's Third Country Training Programme.
2. During its stay in the Kingdom of Thailand, the Team conducted surveys, held a series of meetings and exchanged opinions with the authorities concerned of the Government of the Kingdom of Thailand in respect of the desirable measures to be taken by both Governments to ensure the successful implementation of the Course.
3. The Team and the authorities concerned of the Government of the Kingdom of Thailand also respect the Minutes of Meetings between the Joint Preliminary Survey Team, jointly organized by the Team and the Department of Technical and Economic Cooperation (DTEC) of the Government of the Kingdom of Thailand and the authorities concerned of the Government of the Lao PDR in order to implement the Course successfully.
4. Both sides drafted the Record of Discussions attached as APPENDIX I, and agreed to recommend to their respective Governments that further studies should be made for elaborating it in order to ensure the successful implementation of the course.
5. Since both Governments will conduct the Course as the equal partners, the Team has proposed that both Governments share the equal amount of necessary cost for the Course. However, since the impacts of economic crisis on DTEC budget is larger than expected, the Team and DTEC agreed to implement the Course in 1998 with the tentative estimate of the expenses attached as ANNEX III.

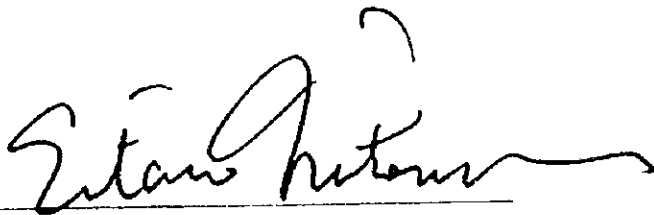
The Government of the Kingdom of Thailand will increase its share of the expenses subject to its budget availability.



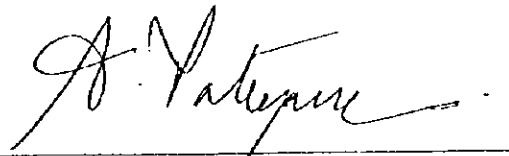
6. Both JICA and DTEC agreed to review the performance and management of the first-year Course in order to obtain useful experience for the formulation and elaboration of future training courses under the trilateral cooperation programme among Japan, the Kingdom of Thailand and other countries.

7. A list of the attendants at the meeting is attached as APPENDIX II.

Bangkok, June 10, 1998

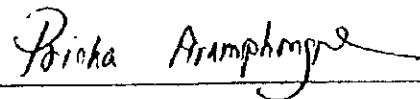


Mr. Eitaro Mitoma
Leader,
Preliminary Survey Team,
Japan International Cooperation Agency

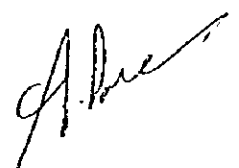
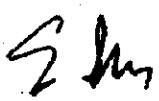


Mr. Apinan Patiyanon
Director,
External Cooperation Division I,
Department of Technical and Economic
Cooperation

Witnessed by



Mr. Picha Aramphongphun
Director,
Forest Nursery Division,
Royal Forest Department,
Ministry of Agriculture and Cooperatives



APPENDIX I: The Record of Discussions Between the Resident Representative of JICA Thailand Office and the Authorities Concerned of the Government of the Kingdom of Thailand on the Third Country Training Programme Under Japan-Lao-Thai Cooperation

APPENDIX II: List of the Attendants at the Meetings

2, 9m.



THE RECORD OF DISCUSSIONS
BETWEEN
THE RESIDENT REPRESENTATIVE OF JICA THAILAND OFFICE
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE KINGDOM OF THAILAND
ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME
UNDER JAPAN-LAO-THAI COOPERATION

In accordance with the Record of Discussions on Japan-Thailand Partnership Programme in Technical Cooperation signed on August 1, 1994, the Japanese Preliminary Survey Team, organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Eitaro Mitoma, visited the Kingdom of Thailand from May 31st, 1998 to June 11th, 1998 and had a series of discussions with the authorities concerned of the Government of the Kingdom of Thailand with respect to the framework of a training course in the field of reforestation and extension techniques under JICA's Third Country Training Programme, and to the desirable measures to be taken by both Governments to ensure the successful implementation of the course.

Based on the above discussions, the Resident Representative of JICA Thailand Office and the authorities concerned of the Government of the Kingdom of Thailand agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the documents attached hereto.

Bangkok, , 1998

Mr. Kenji Iwaguchi
Resident Representative,
Japan International Cooperation Agency,
Thailand Office

Mr. Pichet Soontompipit
Director - General,
Department of Technical and Economic
Cooperation

Witnessed by _____
Mr. Plodprasop Suraswadi
Director - General,
Royal Forest Department,
Ministry of Agriculture and Cooperatives

ATTACHED DOCUMENT

The Government of Japan and the Government of the Kingdom of Thailand will cooperate with each other in organizing a training course in the field of reforestation and extension techniques (hereinafter referred to as "the Course") under JICA's Third Country Training Programme.

The Government of the Kingdom of Thailand will conduct the Course with the support of the technical cooperation scheme of the Government of Japan. The Course will be held once a year from the Japanese Fiscal Year (JFY) 1998 to JFY 2000, subject to annual consultations between both Governments.

The Course will be conducted in accordance with the followings ;

1. TITLE

The Course will be entitled "Reforestation and Extension Techniques for Lao Foresters".

2. PURPOSE

The purpose of the Course is to provide the participants from the Lao PDR with an opportunity to improve the techniques of reforestation, forest management, extension and the sustainable utilization of forest, in order to contribute to encourage local people's reforestation activities in the context of community development.

3. OBJECTIVES

At the end of the Course, the participants are expected to have acquired;

- 3-1 reforestation techniques including nursery management;
- 3-2 agroforestry and other related forestry techniques;
- 3-3 forest and other related species such as fruit trees management system;
- 3-4 community-based natural resources management and development;
- 3-5 extension methods to local people; and
- 3-6 knowledge concerning forest conservation and watershed management.

4. DURATION

The duration of the Course will be approximately five (5) weeks and the Course for JFY 1998 (hereinafter referred to as "the first Course") will be held from August - September , 1998.

5. CURRICULUM

The curriculum outline of the first Course is attached as ANNEX I.

6. NUMBER OF PARTICIPANTS

The number of participants from the Lao PDR shall not exceed fifteen (15), and the number of participants from the Kingdom of Thailand shall not exceed three (3).

7. QUALIFICATION FOR APPLICANTS

Applicants for the Course are :

- 7-1 to be nominated by the Government of the Lao PDR in accordance with the procedure stipulated in 9-1 below;
- 7-2 to be not over forty-eight (48) years of age;
- 7-3 to have practical experience of more than 5 years in the field of forestry practice; and
- 7-4 to be in good health, both physically and mentally, in order to complete the Course.

8. FACILITIES AND INSTITUTIONS

The Course will be given by the Royal Forest Department(RFD), the Government of the Kingdom of Thailand. Facilities of RFD's Udon Thani Nursery Center will be primarily utilized for the Course.

9. APPLICATION PROCEDURE

- 9-1 The Government of the Lao PDR on behalf of its nominees should forward three (3) copies of the prescribed application form for each nominee to the Government of the Kingdom of Thailand not later than sixty (60) days before the commencement of the Course.
- 9-2 The Government of the Kingdom of Thailand will inform the Government of the Lao PDR, whether or not the applicants are accepted to the Course not later than thirty (30) days before the commencement of the Course.

10. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF JAPAN AND THE GOVERNMENT OF THE KINGDOM OF THAILAND

In organizing and implementing the Course, both Governments will take the following measures in accordance with the relevant laws and regulations in force in each country.

The schedule of the first Course operation is attached as ANNEX II.

10-1 The Government of the Kingdom of Thailand

10-1-1 Department of Technical and Economic Cooperation (DTEC)

- (1) To forward the general information brochures (G.I.) to the Government of the Lao PDR through its diplomatic channels and to the JICA Thailand Office (hereinafter referred to as " the JICA Office ").
- (2) To receive application forms and to forward them to RFD.
- (3) To notify the results of the selection of participants to the Government of the Lao PDR through its diplomatic channels and to the JICA Office .
- (4) To bear some portion of the following expenses, to be consulted between both Governments each year (A tentative estimate of expenses for the first Course is

attached as ANNEX III.)

- a) Expenses relevant to participants such as traveling expense, accommodation, per-diem and medical treatment for participants.
 - b) Expenses relevant to the RFD such as study tour(s), texts, teaching aids, expendable supplies, copies and honoraria for external lecturer(s).
- (5) To submit a bill of estimate for the expenses to be borne by the Government of Japan to the JICA Office not later than sixty (60) days before the commencement of the Course.
 - (6) To submit a statement of expenditure to the JICA Office within forty-five (45) days after the termination of the Course.

10-1-2 Royal Forest Department (RFD)

- (1) To formulate the curriculum based on ANNEX I.
- (2) To draft and print the G.I.
- (3) To assign an adequate number of its staff as lecturers/instructors for the Course.
- (4) To provide training facilities and equipment for the Course.
- (5) To select participants for the Course
- (6) To arrange accommodations for participants.
- (7) To arrange domestic study tour(s) as a part of the Course, if necessary.
- (8) To issue certificates to the participants who successfully complete the Course.
- (9) To evaluate participants' achievement, course content, curriculum and administrative performance
- (10) To submit a course report to the JICA Office and DTEC within thirty (30) days after the termination of the Course.
- (11) To coordinate any matters related to the Course.
- (12) To meet and see participants from the Lao PDR off at the Friendship Bridge in Nong Khai.

10-2 The Government of Japan

- (1) To dispatch Japanese short-term expert(s), in accordance with the regular procedures of its technical cooperation scheme, who will give advice to RFD and deliver some lectures on such subjects as mentioned in ANNEX I. This, however, is subject to the availability of the JICA budget for this purpose and the number of suitable expert(s) in Japan. RFD is expected to pre-inform the request for the JICA short-term expert(s) to JICA Office not later than the annual consultation.
- (2) To bear some portion of the following expenses, to be consulted between both

Governments each year, through JICA (An estimate of expenses for the first Course is attached as ANNEX III.)

- a) Expenses relevant to participants, such as traveling expense, accommodation, per-diem and medical treatment for participants.
- b) Expenses relevant to RFD such as study tour(s), texts, teaching aids, expendable supplies, copies and honoraria for external lecturer(s).

11. PROCEDURE FOR REMITTANCE AND EXPENDITURE

Remittance of funds for the expenses to be borne by the Government of Japan and through JICA expenditure thereof will be arranged in accordance with the following procedures:

- 11-1 DTEC will open a bank account in the Kingdom of Thailand to receive the funds remitted by JICA, and inform the JICA Office of the name of the bank, the account code number and the name of the account holder.
- 11-2 DTEC will submit to the JICA Office a bill of estimate for the expenses to be borne by the Government of Japan not later than sixty (60) days before the commencement of the Course.
- 11-3 JICA will assess the bill of estimate and remit the approved amount of expenses to the account mentioned in 11-1 above within thirty (30) days after receipt of the bill of estimate.
- 11-4 DTEC will submit to the JICA Office a statement of expenditure within forty-five (45) days after the treatment of the Course.
- 11-5 In case there is any unspent remainder of the amount remitted by JICA, DTEC will reimburse the unspent amount to JICA in accordance with the advice given by JICA. The fund allocated for the flight fare, accommodation, per-diem and medical insurance premiums shall not be appropriated for any other purposes.
- 11-6 JICA requests that DTEC make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence necessary to verify the expenditures stated in 11-4 above.

12. OTHERS

This attached document and the following Annexes attached hereto shall be deemed to be part of the Record of Discussions:

ANNEX I : Tentative Curriculum of the Course (for JFY 1998)

ANNEX II : Schedule of the Course Implementation (for JFY 1998)

ANNEX III : Estimate of Expenses to be borne by the both Governments (for JFY 1998)

**TENTATIVE CONTENTS OF TRAINING COURSE ON REFORESTATION AND
EXTENSION TECHNIQUES FOR LAO FORESTERS**

1. INTRODUCTION

- 1.1 Orientation
- 1.2 History and Current Condition of Forest in Thailand and the Lao PDR
- 1.3 Concepts of Social/Community Forestry
- 1.4 Community-based Natural Resource Management (including Participatory Rural Appraisal)

2. LECTURE ON EXTENSION TECHNIQUES

- 2.1 Principle of Extension
- 2.2 Extension in School and Public Festival
- 2.3 Extension Through Community Forest
- 2.4 Extension Through Training (Target, People, Subject and Curriculum)

3. LECTURE ON REFORESTATION TECHNIQUES

- 3.1 Seed Handling
- 3.2 Nursery Techniques
- 3.3 Agroforestry
- 3.4 Afforestation Techniques
- 3.5 Plant Breeding Techniques
- 3.6 Vegetative Propagation
- 3.7 Silviculture Measures for Plantation

4. PRACTICE

- 4.1 Seed Handling
- 4.2 Nursery Techniques
- 4.3 Tray Afforestation Techniques
- 4.4 Plant-Breeding Techniques
- 4.5 Extension Techniques
- 4.6 Training Techniques
- 4.7 Participatory Rural Appraisal

S. In.

A. Pale

5. FIELD TRIP

- 5.1 Pine Improvement Center
- 5.2 Teak Improvement Center
- 5.3 Phu Wiang Watershed Development Project
- 5.4 Khao Kho Resettlement Project
- 5.5 Sam Mun Highland Development Project
- 5.6 Thai-German Highland Development Project
- 5.7 Afforestation and Private Nursery Managed by Villagers Themselves
- 5.8 Other King's Projects

6. PLAN OF ACTION

Presentation of Plan of Action and Discussion

7. EVALUATION

S. Am.

A. P.

Tentative Schedule for the First Course

ANNEX I

Day	Date	Morning	Lecturer	Afternoon	Lecturer	Training Institute	Accommodation
1	17 Aug.98	Travel by car : Vientiane - Udonthani		Registration		Nursery Center 2	Udonthani
2	18	09:00 Opening Ceremony 10:30 Orientation	Center 2	13:00 Lecture on History and Current Forest Situation in Thailand & Lao PDR	Director of Nursery Division	Center 2	Udonthani
3	19	08:30 Introduction to Nursery Center 2 Activity	Center 2	13:00 Observation of the Center Activity	Center 2	Center 2	Udonthani
4	20	08:30 Lecture on Forest Tree Seed Management	Mr.Papan	13:00 Practice in Seed Collection and Handling	Mr.Papan & Staff Center 2	Center 2	Udonthani
5	21	08:30 Lecture on Nursery Techniques	Mr.Somsok	13:00 Practice in Nursery Techniques	Staff Center 2		Udonthani
6	22	07:00 Travel by Car: Udonthani - Khao Kho 11:00 Khao Kho Development Project Brief on Activity		13:00 Phuhin Rong Kia National Park		RFD	Phuhin Rong Kia National Park
7	23	Observation of Resettlement Project in Phuhin Rong Kia National Park	National Park	13:00 Travel by car to Phrae			
8	24	07:00 Travel by car to Ngao, Observation of Teak Improvement Center	TIC	The Observation Continued	TIC	RFD	Phrae
9	25	07:00 Observation of FIO Teak Nursery Center	FIO	Observation of Forest Pest Control Center	FPCC	RFD	Payao
10	26	07:00 Travel by Car: Payao - Mae Suai		Travel by car: Ngao - Payao Observation of Thai-German Highland Development Project	Project Staff		Mae Suai (Project Site)
11	27	07:00 The Observation Continued	Project Staff	Travel by Car: Mae Suai - Chiangmai			Chiangmai
12	28	Note Arrangement		Free Time			Chiangmai
13	29	07:00 Travel by Car: Chiangmai -Pai Observation of Sani-Mun Highland Development Project	Project Staff	The Observation Continued	Project Staff	RFD	Project Site
14	30	The Observation Continued	Project Staff	Travel by Car : Pai - Chiangmai			Chiangmai

Day	Date	Morning	Lecturer	Afternoon	Lecturer	Training Institute	Accommodation
15	31	Participatory Rural Appraisal (PRA)	Dr. Uraivan	Practice in PRA	Dr. Uraivan	CMU	Chiangmai
			Tonkimyong		Tonkimyong		
16	1 Sept.98	G.I.S.		Practice in G.I.S.	Dr. Uraivan	CMU	Chiangmai
17	2	07.00 Travel by Car: Chiang Mai - Hod		Observation of Pine Improvement Center	PIC	RFD	Hod
18	3	The Observation Continued	PIC	Travel by Car: Hod - Chiang Mai			Berth in the Train
				Travel by Train: Chiangmai- Bangkok			Bangkok
19	4	Arrive in Bangkok		Free Time			Udonthani
20	5	Visit Botanical Garden	Garden Staff	Travel by Air: Bangkok - Udonthani			Udonbani
21	6	Note Arrangement		Free Time			Udonbani
22	7	Lecture on Plant Breeding Techniques	Dr. Reongchai	Practice in Plants Breeding Techniques	Dr. Reongchai	Center 2	Udonthani
23	8	Lecture on Propagation Techniques	Mr. Niwat Panya	Practice in Propagation Techniques	Mr. Niwat Panya	Center 2	Udonthani
24	9	Lecture on Forest Pest Control	Dr. Chaweevon	Practice in Forest Pest Control	Dr. Chaweevon	Center 2	Udonthani
25	10	07.00 Travel by Car: Udonthani - Nakhon Ratchasima		Lecture on Afforestation Techniques and Observation of Afforestation	Chief of Center	Afforestation Research and Training Center Sakarat	Ratchasima
26	11	07.00 Travel by Car to Nursery Center 4	Mr. Sormporn	Practice in Air - root Pruning System	Mr. Sormporn	Center 4	Nakhon
							Ratchasima
27	12	07.00 Travel by car: Nakhon Ratchasima	Mr. Suttinun	The Observation Continued	Mr. Suttinun		Yasobon
		Dunnum Observation Privates Plantation					
28	13	07.00 Travel by Car: Yasobon - Amnanchaen		Observation of Community Forest	Committee	Community Forest	Daog Yai (Site)
						Committee	
29	14	07.00 Travel by Car: Amnanchaen - Sakon Nakhon		Note Arrangement			Sakon Nakhon
30	15	Lecture on Agroforestry	Mr. Weerayut	Observation of on - farm Agroforestry and Community Forest	Mr. Weerayut & Project Staff	Community Forest	Sakon Nakhon
						Development Project	
						(Phupam National Park Site)	
31	16	The Observation Continued	Mr. Weerayut	13.00 Travel by Car: Sakon Nakhon - Udonthani		Center 2	Udonthani
32	17	Lecture on Social Forestry Theory	Dr. Komol Prathong	Practice in Social Forestry Techniques	Dr. Komol Prathong & Center 2 Staff	Center 2	Udonthani
33	18	Lecture on Extension Theory	Dr. Yowarak	Practice in Extension Techniques	Dr. Yowarak	Center 2	Udonthani

Day	Date	Morning	Lecturer	Afternoon	Lecturer	Training Institute	Accommodation
34	19	Observation of Private Nursery	Center 2 Staff	Note Arrangement	Center 2 Staff	Center 2	Udonthani
35	20	Group Discussion	Center 2 Staff	Free Time		Center 2	Udonthani
36	21	09.30 Closing Ceremony		Travel by Car : Udonthani - Vientiane			

SCHEDULE OF THE COURSE IMPLEMENTATION (FOR JAPANESE JFY 1998)

MONTH	THAI SIDE	JAPANESE SIDE
June 1998	1. Signing of the Record of Discussions 2. Preparation of G.I.	1. Signing of the Record of Discussions
July 1998	1. DISTRIBUTION OF G.I. and Application Form 2. Submission of Form A-1	1. Recruitment of Expert(s)
Middle of July 1998	1. Submission of Bill of Estimate 2. Selection of and Notification of Participants	1. Remittance of Expenses 2. Submission of Form B-1
August/September 1998	1. Implementation of the Course	1. Dispatch of Expert(s)
November 1998	1. Submission of Statement of Expenditures 2. Submission of Course Report	

S.M.

A.H.

ANNEXIII

Cost Estimate for Training on Reforestation and Extension Techniques for Lao Foresters

Number of Participants: 18 (Lao: 15 and Thai: 3), Duration: 36 days

Description	JICA Budget	DTEC Budget	Breakdown	Total(Baht)
I. INVITATION EXPENSES				
1. Travel Expense (Vientiane-Udon-Vientiane)	8,000		2,000*2*2	8,000
2. Living Allowances for Invited Participants				
- Accommodation		450,000	1,200*15*25	450,000
- Accommodation for study tour	180,000		1,200*15*10	180,000
- Per diem	432,000		800*15*36	432,000
3. Living allowances for Thai Participants		97,200	900*3*36	97,200
4. Medical Insurance	22,500		1,500*15	22,500
5. Domestic Travels				
- Air fare (BKK-Udon)	28,980		1,610*18	28,980
- Train fare (Chiang Mai-BKK)	12,600		700*18	12,600
- Airport fee	540		30*18	540
6.VISA on Arrival, Extend VISA&Others	36,000		2,400*15	36,000
Sub Total	720,620	547,200	-	1,267,820
II. TRAINING EXPENSES				
1. Honoraria for Lecturers	80,000		1,000*80(in-class)	80,000
- Practice	30,000		500*25 (Practice)	30,000
- Honoraria for Institution for Field Trip	30,000		2,000*15	30,000
2. Employment Fee for Secretary	40,000		400*2*50	40,000
- Employment for Driver	32,400		300*3*36	32,400
3. Study Tour Accompanied Lecturers & Staff				
- Air fare (BKK-Udon)	8,050		1,610*5	8,050
- Air fare (BKK-Chiang Mai-BKK)	3,300		3,300*1	3,300
- Train fare (Chiang Mai-BKK)	3,500		700*5	3,500
- Per diem & Accommodation	89,000		1,780*5*10	89,000
- Airport Fee	150		30*5	150
4. Transportation				
- Gasoline	54,000		500*3*36	54,000
- Bus Rental	120,000		2 *2,500*24 days	120,000
5. Coffee Break	54,000		25*2*30*36	54,000

6. Text Book Printing	40,000			40,000
- Translation (Thai, English - Lao)	80,000		400*200	80,000
7. G.I & Certificate Printing	20,000			20,000
8. Report Printing (Thai & English)	40,000		50*2*400	40,000
9. Opening & Closing ceremony	40,000		500*40*2	40,000
10. Training Materials & Others	40,000			40,000
Sub Total	819,600	-	-	819,600
Grand Total (Baht)	1,540,220	547,200	-	2,087,420

LIST OF THE ATTENDANTS AT THE MEETINGS

Mr. Apinan PATIYANON	Director, External Cooperation Division I, Department of Technical and Economic Cooperation (DTEC)
Mr. Banchong AMORNCHEWIN	Chief, Japan Sub-Division, External Cooperation Division I, DTEC
Mr. Anuman LEELASORN	Staff, Japan Sub-Division, External Cooperation Division I, DTEC
Ms. Sineenart KHOVITOONKIJ	Policy and Plan Analyst, Foreign Agriculture Relations Division, Office of the Permanent Secretary, Ministry of Agriculture and Cooperatives
Mr. Suvat SINGHAPANT	Director, Reforestation Office, Royal Forest Department (RFD)
Mr. Pricha ARAMPHONGPHUN	Director, Forest Nursery Division, Reforestation Office, RFD
Mr. Thirdpong SUPAPERM	REX Project Coordinator, RFD
Ms. Renoo SUWANARAT	REX Project Coordinator, RFD
Mr. Bundit KOBMOO	Chief, Udonthani Nursery And Extension Center, RFD
Mr. Somdet CHAMPEE	Staff, Udonthani Nursery And Extension Center, RFD
Mr. Eitaro MITOMA	Leader, Preliminary Survey Team, Japan International Cooperation Agency (JICA)
Ms. Saori HIRAI	Chief, National Forest Management Planning Section, Planning Division, Nagano Regional Office
Ms. Mayumi HACHISUKA	Staff, First Training Division, Training Affairs Department, JICA
Mr. Keiichi TAKEDA	Senior Advisor to DTEC, JICA
Mr. Yasuyuki INOUE	JICA Expert, Forest Research Office, RFD
Mr. Hiroto AIHARA	JICA Expert, REX Project, RFD
Mr. Yasutoshi YAMADA	Project Formulation Adviser, JICA Thailand Office

JICA